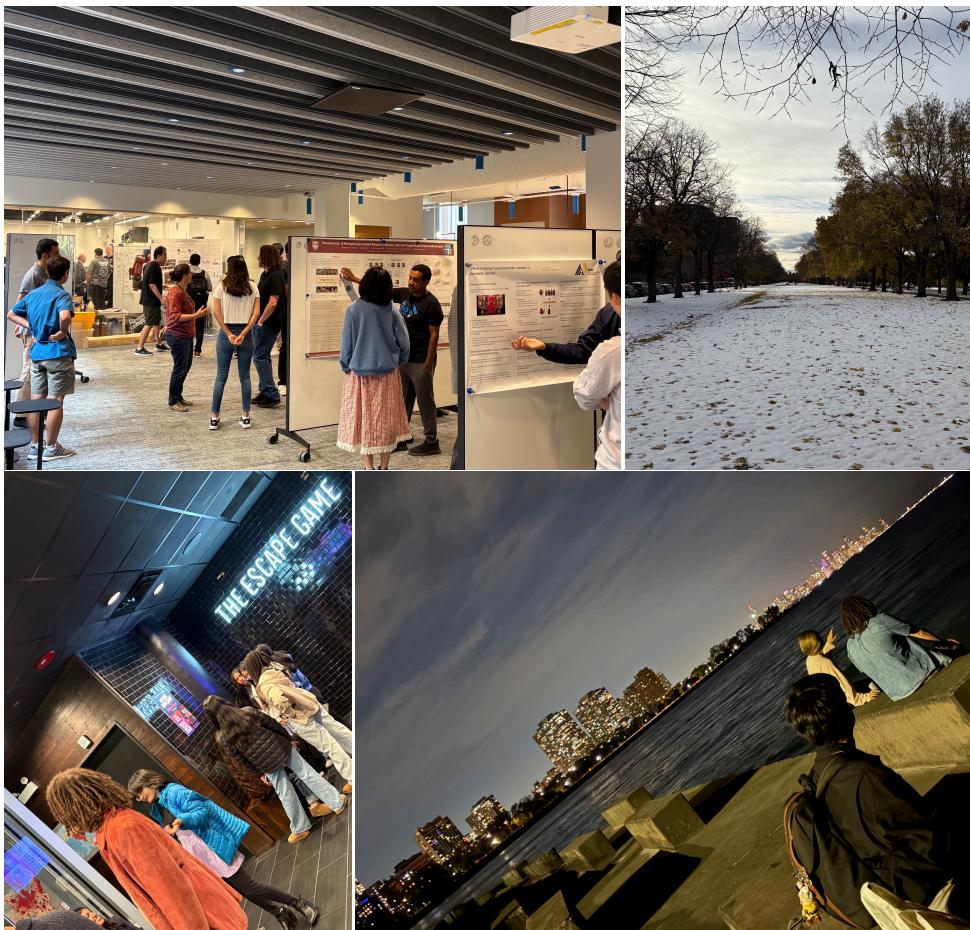


第1回 留学報告書

木下 裕太

2025年12月

2025年9月に Toyota Technological Institute at Chicago (TTIC) の PhD 課程を開始し、無事に最初の秋クオーターを終えました。渡米から現在に至るまでを振り返り、率直な感想を共有できればと思います。



1 Work at TTIC

■研究 TTIC に出願した理由の 1 つは、今まさに私の (Interim) Advisor である Prof. Avrim Blum と働くことでした。私の関心はアルゴリズム的ゲーム理論とオンライン学習という 2 つの分野にまたがっており、これらを含む幅広い領域で仕事をしてきた Avrim は偉大なロールモデルの一人です。TTIC の Chief Academic Officer をはじめ、様々な役職を兼任する極めて多忙な方ですが、週 1 回のミーティングでは毎回的確かつ示唆に富んだコメントをくれます。とにかく頭の回転が早く、議論がとても有意義で楽しいです。秋クオーターは授業が忙しく、あまり研究へのリソースを割くことができませんでした。今後は Avrim との仕事はもちろん、TTIC の恵まれた環境を活かしてより幅広い研究をしたいと考えています。

■授業 秋クオーターでは下記の授業を履修しました。またこの他に、シカゴ大学の留学生向けの英会話の授業もとっていました。各クオーターで 2 クラスの履修が目安と言われる中、倍のコースワークをこなすのは想像以上に大変でした。いずれの授業も良い成績で終えることができ、今後の研究に活きる基礎が身に付いたと感じています。

Introduction to Machine Learning – 統計的学習理論から NN に至るまで網羅的な ML の理論と応用

Mathematical Toolkit – 線形代数と確率論を中心とした理論 CS で特に重要な数学的話題

Approximation Algorithms – NP 困難な最適化問題に対する近似アルゴリズムの設計と解析

■課外 金曜日の夕方には TGIF (Thank God It's Friday) と称した食事会が開催され、Faculty も含めた TTIC のメンバー全員に開かれています。季節ごとに Halloween や Diwali などのお祝いも兼ねて行われ、いつも楽しみにしているイベントです。また、Student Body Funds と呼ばれるレクリエーション用の予算もあります。基本的に食事代や交通費は全てカバーされ、レストランでのディナーからホームパーティまで様々なイベントを出費を気にせず楽しめます。

2 Life in Chicago

■引越し 書籍や衣類、小さめの家具を日本から国際宅配便で送りました。インボイスの記入に不備があつて返送されたり、アメリカ側の通関で差し止められたりといったトラブルにより、全ての荷物が届いたのは発送から 2 ヶ月後でした。申告した評価額の 150 - 200% 程度の関税がかかり、送料と合わせるとかなりの出費になりました。直近の大統領令による米国宛ての郵便物・貨物への規制強化の影響もあったかもしれません。

■住まい ウェブサイトの写真とレビューのみを頼りに、キャンパスから徒歩数分のアパートを選びました。ただ実際に住んでみると不満は多いです。入居前からの不具合が多く、特に水回りの修理は日常茶飯事です。ベースの家賃が高い上に、こういった修理や他の細かいサービスごとに料金が上乗せされます。また既に 3 回ほど鍵を家の中に忘れて外出し、計 150 ドルの Lockout Fee を支払いました(これは自分も悪いのですが)。逆に気に入っている点は、建物内のジムが使い放題であること、ホテルのような煌びやかな外見くらいでしょうか。様子見で 10 ヶ月間の契約なので、早くも次の物件を考え始めています。

■気候 昨夏のインターンシップでドイツに滞在した 3 ヶ月間を除き、これまで人生のほとんどを東京で過ごしました。そんな私がシカゴでの新生活で最も苦労しているのは気候の違いです。東京に比べ、気温は平均 10 度ほど低く、常に乾燥しています。渡米直後の 9 月時点では既に肌寒く、真冬を迎えるという現在は日中も 0 度を下回ります。また特に今冬は積雪が多く、11 月上旬からの累積降雪量は例年を大きく上回るそうです。

■食事 実は日本にいるときから、オートミールや果物、ヨーグルト、卵などを中心とした食生活を好んで送っていました。こういった食材は、比較的どの国でも現地のスーパーで調達できるというメリットがあります。近所には Trader Joe's (アメリカの大手スーパー) や Walgreens (ドラッグストア) があり、日々の買い出しも便利です。たまには日本料理、あるいは逆にアメリカらしい食事を求め、ダウンタウンやチャイナタウンにも繰り出します。

3 Conclusion

新鮮かつ充実した日々ですが、漠然と不安な気持ちで過ごしているというのが本音です。現時点を取り組んでいる仕事、さらには今後の PhD 生活に明確な展望が持てていないことが、(ありきたりですが) 大きな悩みです。目の前にはできることが山ほど積み重なっているので、まずはその一つ一つに向かっていきたいと思います。こうした私の挑戦を可能にしてくださっている全ての方々に、改めて感謝を申し上げます。